

地理公民科（世界史B）学習指導案

平成22年1月18日(月)

沖縄県立那覇高等学校

1年9組 39名

授業者 大田直美 印

1 単元名 「第10章ヨーロッパ主権国家体制の展開」

2 単元の目標

- (1) 17世紀半ばから18世紀後半にかけてのヨーロッパ世界の社会や文化の特質、アメリカ・アフリカとの関係について関心を高め、意欲的に学習活動に取り組む。
- (2) 主権国家体制の成立、大西洋貿易についての意見交換を通して、その歴史的意義を多面的・多角的に捉えて判断し、歴史的思考力を深める。
- (3) 17世紀半ばから18世紀後半にかけてのヨーロッパ世界やアジア・アフリカに関して教科書や図説の諸資料などを活用するとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現できる。
- (4) 17世紀半ばから18世紀後半にかけてのヨーロッパ世界やアジア・アフリカについての知識を広げ、時代の全体像への理解を深める。

3 単元設置の理由

(1) 教材観

第10章は世界史を学ぶ生徒にとっては、理解の狭間に置かれやすい章であると言える。第9章近代ヨーロッパの成立では大航海時代や宗教改革を、第11章欧米における近代社会の成長ではアメリカ独立革命とフランス革命、産業革命を学ぶが、これらは中学校で既習済みであり、記憶の掘り起こしが容易な分野である。一方、第10章はイギリス革命を除けば、抽象概念も多く、新出事項が中心になっている。ここでは、重商主義政策の実施とそれに伴う植民地を巡る争いの中で、各国がどのように成長を遂げ、国際関係の枠組みを作っていたのか、その道筋を明らかにする中で、次章で扱う諸革命とのつながりを理解させたい。また、ヨーロッパ各国の改革の状況を比較し、その意義や影響について考察し、現代の欧米社会を理解する手がかりをつかませたい。

(2) 生徒観

現在、1年生の全クラスで必修科目として世界史B（4単位）が設置されている。本校は国立大学への進学を目指す生徒が多いため、基本的に学習に対して真面目であり、授業態度の良い生徒が多い。その一方で世界史を苦手とする生徒も多く、大学入試センター試験で世界史Bを受験する生徒が近隣校と比べても圧倒的に少ない。その傾向は1年生においても同様で、各種アンケート等の結果からも世界史への苦手意識が読み取れる。そのため授業においても、知識・理解の定着に個人差が大きい。しかし、同年代同士からの影響を強く受けやすい時期でもあるので、生徒相互の学びあいを取り入れた授業を進めることで、大きな意識変化が起こればよい状況にあると考えられる。

(3) 指導観

生徒たちの現実的な目標としては、大学入試センター試験「世界史B」に対応できる学力を獲得することにあると言える。しかし、知識注入型の授業スタイルは、生徒に世界史を敬遠させる流れを助長することにつながるが多かった。この反省をいかし、授業では教師からの一方的な知識の注入と暗記のみの学習に陥らないように配慮したい。この単元では協同学習のような主体的な活動を取り入れて、グループでの学びあいの中から自らと集団の意見を記述させていくことで、生徒の関心・意欲を引き出す工夫を行いたい。メンバー同士の知的働きかけは、互いの内にある理解力を高次のレベルに高められると思われる。また、17世紀半ばから18世紀後半にかけてのヨーロッパ世界の社会や文化の特質、アメリカ・アフリカとの関係については、資料等の活用を通してその歴史的意義を考察させていきたい。資料については、副読本として購入した『ニューステージ世界史詳覧』（浜島書店）が最もコンパクトにまとまっており、なおかつ図表や統計、絵画等変化に富んだ資料構成になっている。今単元では副読本とあわせて、海外の国立公文書館や図書館から教育用に公開されている風刺画や統計資料を精選し使用した。グループで資料の分析と考察を重ねて行く中で、資料の持つ具体性が生徒の理解を促し、歴史的事実と日常生活を結びつけて考えるきっかけを作られると思われる。

(4) 評価観

この単元では、生徒は毎時間自らと集団の意見をまとめ、考えをワークシートに記述していくスタイルを基本としている。一般的な空欄穴埋め型のワークシートとは異なり、そこには生徒個々の思考が表現されるため、評価判定が難しくなる。そこでワークシートをパフォーマンス課題と捉え、複数の評価者でルーブリック（評価基準表）に基づいて評価を行う、「パフォーマンス評価」が望ましいと考えた。また毎時間、授業を振り返る「自己評価シート」を提出させることで、授業の中で各人が取り組まなければいけない課題を明確にし、次回への改善につなげることができると考えた。そして単元終了時には客観テストを行い、数値化して評価したい。これらを総合的に重ね合わせることで、より生徒の実態に近い評価を行うことができると考える。

4 目指す生徒像

様々な歴史事象に対して多面的・多角的な視点から判断し、日常生活と歴史事象を結びつけて捉えることの出来る思考力を備えた生徒の育成を図りたい。

5 研究仮説

時	学習項目	授業仮説
1	重商主義とイギリス革命	イギリス革命の性格を考察する場面において、資料を使用した学び合いをすすめることにより、革命全体の性格とその歴史的意義を理解することができるだろう。
2	イギリス議会政治の確立	イギリス議会政治の確立に至る経緯を理解する場面において、現在の日本の政治と比較しながら資料を基にグループで話し合うことで、議会政治確立に至る経緯を理解することができるだろう。
3	ルイ14世の時代	ルイ14世の時代のフランスを考察する場面において、資料を基にグループで意見をまとめる作業を通じて、ルイ14世の業績の二面性を捉えることができるだろう。
4	プロイセンとオーストリア	プロイセンとオーストリアの対立を話し合う場面において、両国の指導者の類似と相違が分かる資料を通して個人の学びとグループでの学び合いを組み合わせることで、争いの本質に迫ることができるであろう。
5	バルト海の覇者・ポーランド分割	ロシアの発展の転機を理解する場面において、資料を基に個人の学びとグループでの学び合いを組み合わせることで、2人の指導者が転機となったこと、啓蒙専制主義がその柱になったことを理解することができるであろう。
6	アジア市場の攻防	ヨーロッパ諸国のアジア進出の流れを考察する場面において、グループで複数の資料を基に多面的に比較しあうなかで、商業覇権の推移を理解し、アジアの民衆への脅威として想像させることができるであろう。
7	アメリカにおける植民地争奪	ヨーロッパ諸国のアメリカ進出を考察する場面において、複数の資料を基にグループでの学び合いを重ねることで、アジア進出との違いを確認することができるだろう。
8	三角貿易（本時）	三角貿易を考える場面において、資料を通じた生徒個々の意見交換が刺激となって、三角貿易の実像に迫る理解の深まりが生まれてくるであろう。 グループの発言を聞き合う場面において、物事の見方は多様であることに気付き、互いの価値観を尊重する視点を持つようになることができるだろう。
9	17～18世紀のヨーロッパ文化	17～18世紀のヨーロッパ文化に触れる場面において、資料の比較を通して生徒が意見を交換することで、時代や社会状況の具体的なイメージができるようになるだろう。

6 単元計画（全9時間）

時	学習項目	学習内容（ねらい）	指導上の留意点	学習形態	評価規準と評価方法			
1	重商主義と啓蒙専制主義	- 危機の世紀と呼ばれた17世紀の実態と、危機から脱して成長へ転じた18世紀のヨーロッパ世界の大観をつかむ。 17～18世紀のヨーロッパ諸国の動向を、重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。 - 君主の専制政治は、民衆の生活にどのような脅威を与えることになったかを考察する。 - 資料を通して、時代や社会を具体的にイメージできるようにさせる。	資料提示（風刺画・文字資料） 個人：箇条書きで疑問や気付いた点を列挙させる。事実と意見を見分けさせる。 協同：グループ内で意見の優先順位を決定。意見交換から価値観の交流に結びつけさせる。証明が可能か否かを考えさせる。	導入： 一斉授業 ↓10分	関	思	技	知
2	①重商主義とイギリス革命			○		○		
3	②イギリス議会政治の確立				○	○		
4	③ルイ14世の時代					○	○	
5	④プロイセンとオーストリア			○	○			
5	⑤バルト海の覇者・ポーランド分割			○			○	
					基準3（C・E）中心に考察。ワークシート。自己評価シート。			
	ヨーロッパ諸国の海外進出	・ヨーロッパ諸国の植民地争奪と商業	資料提示（統計資料・英文資料）	導入：	関	思	技	知

6	①アジア市場の攻防	覇権の推移について理解する。	個人：箇条書きで疑問や気付いた点を列挙させる。事実と意見、偏見と合理性を見分けさせる。数値の変化に気付かせ原因を考える。	一斉授業5分 ↓ 協同学習10分 ↓ 一斉授業10分 ↓ 協同学習20分 ↓ まとめ5分				
7	②アメリカにおける植民地争奪	・大西洋三角貿易の歴史的意義と、貿易がもたらした国際的枠組みを考察する。	協同：グループで意見の優先順位を決定。意見交換から価値観の交流に結びつける。証明可能か否かを考えさせる。		○		○	
8	③三角貿易（本時）	・資料を通して、時代や社会を具体的にイメージできるようにさせる。				○	○	
					基準3（H・J）中心に考察。ワークシート。自己評価シート。			
9	17～18世紀のヨーロッパ文化 ①科学革命と近代的世界観 啓蒙思想・宮廷文化と市民文化	・科学革命や国際法、芸術の発展など様々な分野において発達した文化とその社会状況を理解する。 ・資料を通して、時代や社会を具体的にイメージできるようにさせる。	資料提示（絵画） 個人：箇条書きで疑問や気付いた点を列挙させる。 協同：グループ内で意見交換から価値観の交流に結びつけさせる。事実と意見、偏見と合理性、証明が可能か否かを考えさせる。	導入：一斉授業 ↓15分 協同学習 ↓25分 まとめ10分	関	思	技	知
					○		○	
					基準3（B・D）中心に考察。ワークシート。自己評価シート。			

7 評価規準と評価方法

(1) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
17世紀半ばから18世紀後半にかけてのヨーロッパ世界の社会や文化の特質、アメリカ・アフリカとの関係について意欲的に追究しようとしている。	17世紀半ばから18世紀後半にかけてのヨーロッパ世界の社会や文化の特質、アメリカ・アフリカとの関係について考察し、主権国家体制の成立、大西洋貿易の歴史的意義を考え、判断しようとしている。	主権国家体制の成立、大西洋貿易に関する資料を活用するとともに、17世紀半ばから18世紀後半にかけてのヨーロッパ世界の社会や文化の特質、アメリカ・アフリカとの関係について追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	17世紀半ばから18世紀後半にかけてのヨーロッパ世界の社会や文化の特質とアメリカ・アフリカとの関係について理解し、その知識を身につけている。

(2) パフォーマンス課題（ワークシート）の評価方法

パフォーマンス課題（ワークシート）に対しては、以下のルーブリック（評価基準表）に基づいて評価を行う。

ル ー ブ リ ッ ク 評 価	5 4 3 2 1	関心・意欲・態度	思考・判断
		・ワークシートの設問に対して、全て記入している。	・資料から事実を読み取り、事実を組み合わせ、正しい根拠に基づく考えを導き出している。 ・過去の学習した事柄との関連に気付き、正しく引用することができる。
		・ワークシートの設問の大半には記入がなされているが、一部に記入がされていないものがある。	・資料から事実を読み取り、事実の組み合わせ、歴史的事象への推測ができていない。 ・過去に学習した事柄との関連に気付いている。
		・ワークシートの設問の半分程度には、記入がなされている。	・資料から事実を読み取ることができている。 ・過去に学習した事柄との関連に気付いたが、一部誤った引用をしている。
		・ワークシートの設問の一部に記入がなされているが、大半は未記入である。	・資料から事実を読み取ることができたが、一部誤った考えを含んでいる。 ・過去に学習した事柄との関連に気付き、多くは間違っていたが、一部正しい引用ができていない。
		・ワークシートの設問に対し、未記入である。	・資料から事実を読み取ることができない。 ・過去に学習した事柄との関連に気付くことができない。

ル ー ブ リ ッ ク	5 4	資料活用の技能・表現	知識・理解
		・適切な具体的事例を挙げて、説明することができる。 ・日常生活とのつながりに気付き、具体的に説明することができる。	・年代を正しく記憶している。 ・歴史事象を正しく理解している。 ・歴史事象について誤字、脱字がない。
		・具体的事例を挙げて、説明することができる。 ・日常生活とのつながりに気付いたが、説明の一部に誤りを含んでいる。	・時代（世紀）を正しく記憶していない。 ・歴史事象を概ね理解している。 ・歴史事象について、誤字、脱字が1カ所ある。

ク 評 価	3	- 説明の大半は正しかったが、一部に誤りを含んでいる。 - 日常生活とのつながりに気付いている。	- 年代や時代を正しく記憶していたが、一部誤った考えが含まれていた。 - 歴史事象の理解の一部に誤りを含んでいたが、大半は正しい。 - 歴史事象について、誤字、脱字が2カ所あった。
	2	- 説明の大半は誤っていたが、正しいものも含まれている。 - 日常生活とのつながりに気付いたが、説明の多くが間違っている。	- 年代や時代についての説明の多くは間違っているが、一部正しいものを含んでいる。 - 歴史事象の理解の大半は誤っていたが、一部正しいものを含んでいる。 - 歴史事象について誤字、脱字が3カ所以上ある。
	1	- 説明することができない。 - 日常生活とのつながりに気付くことができない。	- 年代や時代について記憶できていない。 - 歴史事象そのものを知らない。 - 歴史事象について、誤字、脱字が多い。

8 本時の指導

(1) 本時の題材 「三角貿易」

(2) 本時の目標

- ①三角貿易の構造について理解する。
- ②三角貿易の背景とアフリカ社会に与えた影響を考察する。
- ③三角貿易の利潤がヨーロッパの資本主義発展に大きな関わりを持ったことを理解する。

(3) 授業仮説

- ①協同学習を行う中で、生徒個々の意見交換が刺激となって、三角貿易の実像に迫る理解の深まりが生まれてくるであろう。
- ②発言を聞き合うなかで、物事の見方は一様でなく、多様であることに気付き、互いの価値観を尊重する視点を持つようになるであろう。

(4) 教具等準備物

- ①教科書『詳説世界史B改訂版』山川出版社
- ②資料集『ニューステージ世界史詳覧』浜島書店
- ③ワークシート
- ④自己評価シート

(5) 本時の展開 (8/9時間目)

時	学 習 内 容	生徒の活動	評価の観点	指導・援助の留意点
導入 5分	- 前時の復習 - 本時の目標の確認 ①三角貿易の構造とアフリカ社会への影響を考察する ②三角貿易の利潤が産業革命を促したことを理解する	<一斉授業> コの字型座席 ワークシート (以下WS)に目標を記入 地図をなぞって、場所を確認する。		WS配布 目標は生徒が記入しやすいよう簡略化。
展開 ① 10分	指示1 Q1の地図に薄く円が描かれています。ここが三角貿易が行われた地域です。上からペンでなぞって、位置を確認しましょう 指示2 三つの円をつなぐ矢印A・B・Cも記入しましょう 指示3 ワークシート沿って、班でQ1に取り組みましょう それでは座席を班にしましょう。 Q1: 矢印A・B・Cで何が商品として扱われていたか書きましょう。商品を見て、気付いたことも書きましょう 予想①ヨーロッパに有利な貿易 ②アメリカ・西インドで農業が盛ん ③貧しいから奴隷を輸出している ④ヨーロッパやアフリカは戦争が多い ⑤綿花を輸入し、完成品を輸出 ⑥贅沢品が多い 指示4 ワークシートを見せ合って、必ず確認して下さい。	<協同学習> 4人1班座席 生徒個々で考えた後、班内での意見交換を進める。教科書の他に資料集も参照させて考える。 互いの記述を見せ合い、抜けている部分を確認し記入する。	<協同学習> 一人で考えている場面があったか。 メンバーと意見を交換しているか。 気付いたことを文章化することができたか。論理的な記述になっているか。	生徒の地理的知識は一様ではないので、全員で位置確認。 机間観察(生徒の様子を細かく観察する) 生徒からの直接的な質問には答えず、まずはメンバーに相談するよう促す。話し合いが進まない班を中心に声かけを行って意見交換を促す。 WSを見せ合うことで、生徒相互の教えあい・助け合いの場面を作る。
展開 ② 10分	指示5 それでは、座席をコの字に戻して下さい。Q1を確認しましょう。 ・矢印A・B・Cの答えを列挙する 質問1	<一斉授業> コの字型座席 抜け落ちていた答えがあれば書く。	<一斉授業> 質問に対して意見を述べることもできた。	生徒の様子を観察しながら指示を出す。 出来るだけ多くの生徒から意見を引き出すよう、心掛ける

展開 ③ 20分 まとめ 5分	どんなことに気付きましたか？ (上記の予想①～⑥が生徒から挙がる。) - 資料集165pの奴隷商人の絵を提示し、当時の状況を解説する 300年間で900万人から1500万人がアフリカからアメリカ大陸へ移送された点に触れる 指示6 それではQ2を班で考えましょう。座席を再度班に戻して下さい Q2：英文の裁判記録を見て気付いたことを書こう。また、アフリカやヨーロッパをどう考えたのか考えてみよう。 予想①逃げ出したくなる状況にいた ②黒人への差別が刑を重くした ③刑の執行が早い ④三角貿易はヨーロッパの生産を上げた 指示7 班の意見を聞かせて下さい。 → 上記の予想が生徒から挙がる - 本時の学習の確認、次回予告 指示8 自己評価シートを記入します	資料集で絵を確認する。 新たに感じたことがあれば書かせる。 ＜協同学習＞ 4人1班座席 互いの意見を伝えあい、班としての意見をまとめる。 他班の意見をWSに記述させる。	＜協同学習＞ メンバー同士助け合ってWSを解いているか。教科書等を活用しているか。班で意見を整理し、発表できたか。 WS及び自己評価シートの提出	説明は簡略に。 現在のアフリカの現状との因果関係にも気付かせる。 発表用白紙を配布。 前回の学習事項を思い出させ、話し合いの糸口にする。グループから出た質問で全体に関わるものについては班ではなく全体に答えを戻す。 英語は大意で良い。 物事は様々な見方があり、一概に断定できないこと、現在にも通じる部分があることに気付かせる。 WS・自己評価シート ・発表用紙を回収
---	---	--	--	---

(6) 本時の評価

ワークシート及び自己評価シートを用いる。ワークシートは、単元計画に基づき、「関心・意欲・判断」と「資料活用の技能・表現」について、評価を行う。

ル ー ブ ツ ク 評 価	関心・意欲・判断	資料活用の技能・表現
	- 資料から事実を読み取り、事実を組み合わせ、正しい根拠に基づく考えを導き出している。 - 過去の学習した事柄との関連に気づき、正しく引用することができる。	- 適切な具体的事例を挙げて、説明することができる。 - 日常生活とのつながりに気づき、具体的に説明することができる。
	- 資料から事実を読み取り、事実の組み合わせ、歴史的現象への推測ができている。 - 過去に学習した事柄との関連に気付いている。	- 具体的事例を挙げて、説明することができる。 - 日常生活とのつながりに気付いたが、説明の一部に誤りを含んでいる。
	- 資料から事実を読み取ることができる。 - 過去に学習した事柄との関連に気付いたが、一部誤った引用をしている。	- 説明の大半は正しかったが、一部に誤りを含んでいる。 - 日常生活とのつながりに気付いている。
	- 資料から事実を読み取ることはできたが、一部誤った考えを含んでいる。 - 過去に学習した事柄との関連に気づき、多くは間違っていたが、一部正しい引用ができている。	- 説明の大半は誤っていたが、正しいものも含まれている。 - 日常生活とのつながりに気付いたが、説明の多くが間違っている。
1	- 資料から事実を読み取ることができない。 - 過去に学習した事柄との関連に気付くことができない。	- 説明することができない。 - 日常生活とのつながりに気付くことができない。